



令和元年8月19日 第1949回例会

2019~2020年度 国際ロータリー会長 マーク・ダニエル・マローニー

●会長 坂元 直人 ●副会長 加島 繁 ●幹事 川路 理幸 ●編集 広報・雑誌・IT委員会 (公共イメージ)

【四つのテスト】 言行はこれに照らしてから ① 真実かどうか ② みんなに公平か ③ 好意と友情を深めるか ④ みんなのためになるかどうか



スマイル・ボックス

●坂元 直人君・川路 理幸君/喜島健一郎ガバナーの当クラブへの公式訪問を会員一同心から歓迎をさせていただきます。

●坂元 直人君/8月3日土曜日の納涼家族会にご参加頂きました皆様方、ありがとうございます。

●海江田 順三郎君/喜島健一郎ガバナーの公式ご訪問を、心から歓迎申し上げます。

●林 良昭君/8月18日が88才を越えて誕生日を迎えることになりました。

●橋元 隆君/連続出席表彰ありがとうございます。

●川畑 英樹君/今週で69歳、60代最後の誕生日を迎えます。

●池島 泰光君/先日3日に開催されました、納涼家族会では坂元会長始め親睦委員会の高柳委員長・濱上委員そして会場

を提供して頂いたふぁみりあんの肥田木社長のご配慮に感謝申し上げます。

●青崎 彰君/7月の誕生日祝い有難うございます。

●下村 哲也君/誕生日祝いありがとうございます。

●丸山 健太郎君/MBCは、いま黎明館で古代アンデス文明展を開催しています。

●高柳 大輔君/納涼家族会は42名の参加で大盛況の会を開催させる事ができました。

●国際奉仕委員会/7月22日ラウンドテーブル分スマイルいたします。

8月5日のスマイル 小計 45,381円 2019~2020年度 累計 145,381円

ロータリーソング:「奉仕の理想」 職業宣言唱和:1・2 ゲスト紹介:鹿見島大学総務部総務課 平野謙一郎様...

第1948回例会記録 8月5日(月)

- 8/29(木):4,5,6班 18:30~ 於:ごはんのじかん 4)ガバナー月信8月号の訂正について...

次回例会 令和元年8月26日(月) 会員卓話=小笹 貴之君・下 隆治君・園田 剛介君

Table with 4 columns: 出席率, 会員数, 出席数, 出席報告. Data for 第1948回例会 and 前々回(7月22日)の補正.

本日のプログラム ゲスト卓話=島津 義秀様 「義弘公没後400年によせて」

8月 会員増強・新クラブ 結成推進月間 前回例会出席率 92.31%

会長の時間

坂元 直人



みなさん、こんにちは。本日は喜島健一郎ガバナーに当クラブを公式にご訪問頂きました。

第2730地区の全クラブを公式訪問されるというのは、想像以上に時間と労力を取られることだと推察しております。

喜島ガバナーは、本年度の第2730地区の目標を「クラブの活性化に努めよう」にされておられます。

そして、喜島ガバナーはその為の活動計画として五つの活動計画を定めておられますが、当クラブとしては五つの活動計画のうち、「女性会員が10%未満のクラブは、女性会員を10%以上に増強して下さい。」という活動計画に取り組むことに致しました。

現在、当クラブには4名の女性会員がおられます。当クラブとしては、喜島ガバナーの「女性会員が10%未満のクラブは、女性会員を10%以上に増強して下さい。」との活動計画を達成するためには、本年度中に2名の女性会員を増強しないとイケないことになります。

当クラブは8月に情報集会が開催されますが、情報集会のテーマも女性会員の増強に焦点を当て、会員全員が

知恵を出し合って、この活動計画を達成するための計画を立てて行きたいと考えております。

当クラブは本年度、クラブ創立以来初めての女性幹事が誕生しております。川路幹事と私の年度はまだ始まったばかりですが、川路幹事は女性らしいきめ細やかな対応をして下さっており、私も安心して会長職に取り組むことが出来ております。

今後、我がクラブにおいて女性会員が増え、女性会員が活躍の場を広げて行くことは、クラブが持続的に成長をして行くために重要な事柄であり、この点に本年度の川路幹事が先鞭を付けて頂いたことは、当クラブに取りまして非常に良いことでないかと考えている次第です。

我がクラブは鹿児島市内分区分におきまして歴史と伝統を誇るクラブになりますが、現在おられます先輩ロータリアンの方々より、今までのご経験とお知恵を若手会員に継承して行くことが、クラブの永続的な発展にも繋がって行くだろうと考えております。

最後に余談になりますが、私が現在着用しておりますネクタイはPETSの際、喜島ガバナーより頂戴したのになります。このネクタイは色々な方からお褒めの言葉を頂戴しており、姉妹盟約を結んでおります七釜山ロータリークラブを訪問した際も同様の言葉を頂戴しました。



ガバナー公式訪問

■加島 繁

本日は、先月出席したセ釜山 RC との国際交流についてご報告致します。

ご承知のとおり、日本と韓国は、政府間のこじれで大変難しい状況になっています。

私達がセ釜山での離就任式に出席した7月4日もすでに元徴用工訴訟問題などで、ギクシャクしていました。出発の前日から九州地方を襲った大雨による交通網の乱れをかいぐり何とか出席することが出来ました。

釜山では、いつもながらの大歓迎をして頂き、セ釜山 RC の会長は、挨拶の中で鹿児島中央 RC との永く育んできた絆は、ゆるぎないものだと言葉をいただき、これまで先輩方が努力を重ねてこられた交流は人と人が歴史を作っているのだと思いました。

今回は、セ釜山 RC に若い人たちが増え、今までとは違った新しい力を感じながらの交流となりました。

帰国後1か月経ちましたが両国の関係は、ますます冷え込んでいます。ある知人のご子息は大阪で電車の自動改札機を作る会社に勤めており、韓国にも納品しているそうです。

そのため、しばしば韓国へ出張するそうですが、今の両国の関係をとて心配しておられ、中央 RC の民間交流がとてありがたい話だと感謝しておられます。

未来志向の民間交流現場でふれあった重要性を感じずにはられません。

仕事で両国を行き来する未来ある若者たちや、いつも大歓迎してくださるセ釜山 RC の方々の笑顔を思い出すとき、これまで先輩方が、育んでこられた絆を断つことのないよう、交流が続けられることを心から願っております。

■里 良男

これまで、数年間「会員数 60 名達成！」を掲げて、歴代会員増強委員長さんが頑張っておられました。

過去 10 年間の会員数の変動は、2012～2013 年度の 58 名が最高で、近年は 53 名～55 名と、60 名には未達の状況です。

今年、5月12日宮崎のシーガイアで地区協議会がありました。協議会終了後「増強委員会研修セミナー」が開催されました。各クラブの増強委員長と共に私も参加してきました。

◇テーマ

- ① なぜ増強しなければならないのか？
- ② どんな増強の方法をとっているか？
- ③ 今後どういった方法をとっていくか？

※各テーブルごとに6～7人でグループ討議を行いました。

◇討議の内容は

- (1) なぜ増強しなければならないのか？
 - ・組織の運営上、会員が少ないと（金銭的に、人



- 的に) 負担が大きい。
 - ・会員が少ないと周年事業などが難しい。
 - ・役員がすぐ回ってくる。
- (2) 現在、どんな増強の方法をとっているか？
 - ・会員から推薦書を年2回集める。
 - ・JC などの OB にターゲットを絞り継続的な勧誘を図る。
 - ・入会対象者を例会に呼ぶ。
 - (3) 今後どういった方法をとっていくか？
 - ・親子会員の募集（実現性は？）
 - ・夜の例会を増やし懇親を図る。（友人知人を招待）
 - ・外部卓話者に働きかけ。
 - ・オープンゲスト。（ベストフレンド？）

◇会員増強委員会としての基本方針

- ・『会員増強は組織に新しいエネルギーをもたらす』
 - ・組織の維持のためには常に会員増強は不可欠である。
 - ・会員増強は、増強委員会だけのものではなく「組織全体が結束して動く」必要がある。
- 上記のことを踏まえ、積極的に会員拡大に努める。

更には、長年の懸案であった「会員数 60 名」を瞬間風速的でもいいので達成する。そのためには、皆様のご協力をお願いします。

◇会員増強のための具体策

1. 年2回程度、会員からの入会対象者情報（紹介カード）を収集する。会員から紹介があったら、手分けして紹介者の協力のもと、勧誘活動を行う。
 2. ベストフレンドに招待し、入会促進につなげる。定例会・夜の例会・忘年会に無料招待し会の雰囲気をつかんでもらう。
 3. 特に女性会員の会員比率の拡大に努める。
 4. 直近の退会者の後任の入会促進。
- ※会員全員の人脈を終結させて、会員 60 名の達成を図りたいと思います。会員各位のご協力をお願いします。

■志賀 啓一

皆さんこんにちは。今年度青少年委員会兼ローターアクト委員会委員長を拝命しました、志賀と申します。

本日は、喜島ガバナー公式訪問例会ということで、クラブフォーラムの3名の発表者としてご指名いただき、足が震える思いであります。かつて入会間もないころ、年少ということでスマイル発表、情報集会発表、クラブ協議会発表などを連続して行っていたところ、当時の吉田 S A A から発表番長の異名をいただいたことがあります。その頃の初心に戻って、精いっぱい務めさせていただきたいと思っております。

さて、鹿児島中央ロータリークラブの青少年委員会の主たる活動計画としましては、兼務にもありますとおり、ローターアクトクラブの支援であります。もう一点、未定ではありますが、本年度ライラが開催されるとしたら本ロータリークラブがホストとなる



可能性が高いということでもあります。以上のようなことから、本日は、当クラブが提唱するローターアクトクラブの現状と、またライラにつきまして、私の方から説明させていただきます。入会の浅いメンバー向けの話もあるかと思っております。少し基本的なことも含めてお話しさせていただくことをお許しください。

まずは、ローターアクトクラブについてです。ローターアクトクラブとは、18歳から30歳までの青年男女のための、ロータリークラブが提唱する奉仕クラブとあります。

国際ロータリーの要覧によると、ローターアクトの目標は次の通りです。

1. 専門技術及び指導能力を開発すること
2. 他人の権利を尊重する観念を養い、あらゆる有用な職業の道徳的水準及び品位を保持し推進すること。
3. 若い人々に地域社会をはじめ世界社会のニーズ及び懸念事項を提起する機会を提供すること。
4. 提唱ロータリークラブと協力して活動に当たる機会を提供すること。
5. ロータリーにおける将来の会員として若い人々の意欲を喚起すること。

このように、大変高貴な目標があるということですが。

ですが一方で、振り返って鹿児島中央ロータリークラブの提唱ローターアクトの現状はどうであるかということ、残念ながら昨年で会員がゼロとなり、休止状態となっております。これは、もちろんクラブとしてもなんとかしなくてはならなかった部分もあるかと思いますが、現代社会において、ローターアクトクラブの役割というものについて、過渡期に入っていることも事実であります。国際的には、ローターアクトがロータリークラブと同等に扱えるような定款変更が行われ、国によってはロータリー並の活動を行っているところもあるようです。しかし現代社会の日本においては、大学や大学院まで卒業又は修了して就職し、ある程度落ち着いて奉仕活動に従事できるとしたら、20台後半になることが予想され、専門的技術及び指導能力を体系的に習得するにしてもあつという間に定年が来てしまうという状況です。ですから、社会人を中心とした会員増強を図るのであれば、輩出いただいている会社の方のご理解をいただき、新入社員の登竜門のような形で定期的に人材をいただかないと、一時的に会員は増えても、また減ってしまうということの繰り返しになってしまうのではないかと思います。では学生を中心にするという方針であれば、やはり中身の明示が必要になります。一例として、私の勤める志學館大学には、アンカークラブがあります。アンカークラブとは、パイロットインターナショナルの青少年組織で、ロータリーとローターアクトと似たような関係にあります。大学サークルとして固定化され、年間で協力すべきボランティア活動内容が具体化されております。もしローターアクトを学生中心にするのであれば、学生サークルとして活動を始めていただき、ある程度具体的にやるべきことの明示が必要です。パイロットやライオ

ンズといったクラブは活動重視なのでやりやすいでしょうが、ロータリーの職業奉仕の卓話中心になるようであれば、学生にとっては就職活動の練習という意義はあるでしょうが、ロータリアンのきちんとした支援が必要です。似たような話は6月に前任者の中間委員長が卓話をされた際にも申し上げましたが、皆さんいかがでしょうか。

社会人を中心とした将来ロータリアンとなる人材を育てるのか、学生を含めた若者の能力開発をするのか、先ほどのアクトの目標中、5か3か、どこに重点をおくかによって、組織のあり方も変えなくてはならないと感じるところです。これらにつきましては、原点に返り原点を大切にしてお変化を受け入れ目標に向かうというガバナーのお言葉通り、ローターアクトの意義を見つめ直し、現代社会におけるローターアクトのあり方も含めて、検討、推進してまいりたいと思います。

さて、話ががらりと変わりまして、ライラについてであります。ライラとは、RI 公式プログラムとして、クラブ・地区で組織されるリーダーシップ養成プログラムで、12歳から30歳を対象にして、青少年のロータリーへの理解を深めるとともに、指導力と協調性または地域社会と国際社会の一員として平和に貢献する資質を伸ばすことを目的としています。当クラブでは10年前、池島直前会長が委員長として運営されたと伺っております。昨年は薩摩川内ロータリークラブがホストとして、薩摩川内青少年自然の家で行われ、3月9日、10日の1泊2日で開催されました。参加者はローターアクトメンバーを含めて41名、コーディネーターを務めるロータリーメンバーもほぼ同数の40名参加しております。具体的内容については毎年異なるようですが、多くの場合、リーダーシップや奉仕活動に造詣の深い方をお招きしての講演会、求められるリーダー像などを中心としたグループディスカッション、プレゼンなどが二日間にわたって行われます。こちらにつきましても、残念ながら昨年度は本ロータリークラブからの申し込みはありません。アクトのメンバーがいなかったことが多分に影響しているのではないかと思います。今年度につきましては、もし当クラブが担当するのであれば、会長の方からは本ロータリークラブが毎年行っております、鹿児島と沖縄の高校生交流事業と連携を図り、高校生たちを参加させたいということをお願いしております。もちろんライラはRI公式事業ですので、不特定多数の皆様へ募集をかける中で、そちらにもご参加いただくよう促すという形になると思いますが、一つの活性化の材料となるかと思っております。また、ライラ自体についても昨年度は地区全体ではなく分割して行うということになりました。今年度どうしていくのかということも含めまして、全体像が判明次第、また対応してまいりたいと思います。

いずれにしましても、今後少子高齢化の中、青少年育成は喫緊の課題といえます。将来的にあるべき人材像も含めて、ロータリークラブの果たす役割は大きいと思われるので、今後とも地区協議会と連携しながら、クラブ内での委員会活性化も図ってまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。